

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に密着した「普通科」校ならではの特色を生かし、「知」「徳」「体」の育成を図り、生徒が「藤高（ふじたか）」生のプライドを持ち行動する学校

- 1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、生徒一人ひとりの希望を叶える進路を実現する
- 2 学校行事や部活動等を通して、生徒の主体性、創造性を育成するとともに公共心を養う
- 3 「地域連携」を核に、地域に根ざした「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携を進める
- 4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる

2 中期的目標

1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と希望を叶える進路の実現

(1) 希望の進路の実現に向け教員の指導力を向上するとともに、生徒が主体的に授業に取り組む教育活動を推進する

- ア 「普通科」における教科横断の授業研究を進めるとともに観点別学習の視点からの授業改善を行い、生徒の学力の向上を図る
- イ 授業における ICT の効果的な活用を進め、視覚化、情報活用による教育効果をさらに高めオンライン学習を併用する

※ 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度 (R1:79.9%、R2:86.3%、R3:86.1%)を令和6年度において90%にすることをめざす。

(2) 3年間を通じて進路指導計画・課外講習の充実を図り、希望の進路を実現させる

- ア 1年次から進路に合わせた授業や進学講習を実施し、早期の目標設定につなげる工夫をする
- イ 進路決定まで、学年進行に合わせて多様な希望に応える個別の指導を幅広く展開する
- ウ 大学等との連携や早期からの講習、自習室活用の拡充、粘り強い指導により難関大学への進学実績を向上させる

※ 国公立・難関私立大学の合格者数 (R1:15人、R2:18人、R3:50人)を令和6年度には60人以上に、それに準じる有名私立大学合格者数 (R1:42人、R2:57人、R3:72人)を令和6年度には85人以上にする

2 学校行事や部活動を通して生徒の主体性、創造性を育成するとともに公共心を養う

(1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」を通して生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力を育む

- ア 体育的行事において生徒会部を中心に組織の企画・運営の力を育むとともに、リーダーとなる生徒を養成する
- イ 文化的行事において生徒の「企画する力」、「協働する態度」、「責任感」を育む
- ウ 「部活動」の活性化によって学校生活をより充実したものにし、その活動を通して公共心を育む

エ 「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」を完全実施するとともに、年間を通して生徒・教職員の負担軽減を図る

※ 生徒向け学校教育自己診断における「学校行事」満足度 (R1:89.3%、R2:91.3%、R3:90.9%)、「生徒会活動」満足度 (R1:94.3%、R2:94.3%、R3:94.1%)「部活動」満足度 (R1:86.8%、R2:85.8%、R3:91.2%)を令和6年度まですべての項目が93%を超えることをめざす

3 「地域連携」を核に、地域に根ざした「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携を推進する

(1) 支援学校との交流を促進し、インクルーシブ教育システムについて理解を深める

ア 藤井寺支援学校との交流活動を充実させ、生徒及び教職員がインクルーシブ教育システムについて理解し活動に生かす

(2) 「地域連携」を核に生徒が主体的に取り組む交流活動を拡充することによって、「地域とともにある、進学したい学校 No. 1」をより確かなものとする

ア 地域活動 (新春セミナー・藤彩展・市民講座・クリーンアップキャンペーン・地域の催しへの参加、地元小学校や他の教育機関との連携活動) の拡充を図り、地域と密着した、「チーム藤高 (ふじたか)」を発展させる

イ PTA、同窓会の協力の下海外研修の継続・充実を図り、藤井寺市海外交流委員会と連携した短期留学生の受け入れ交流も充実させる

※ 生徒向け学校教育自己診断における「特色ある取り組み」に関する肯定度 (R1:76.5%、R2:80.3%、R3:83.5%)を令和6年度において87%にし、「交流活動」に関する肯定度 (R1:86.9%、R2:84.3%、R3:82.3%)を令和6年度において90%をめざす

(3) 「藤高 (ふじたか)」の良さを知り、実感できる広報活動を展開する

ア 学校ホームページ、藤高メルマガのさらなる充実を図り、情報発信を強化する

イ 「体験入学」、「学校説明会」について生徒が主体となった運営を継続し、「藤高 (ふじたか)」の良さをわかりやすく伝えていく

※ 保護者向け学校教育自己診断における「教育情報伝達」に関する満足度 (R1:67.5%、R2:74.7%、R3:87.0%)を令和6年度において95%、「HP・メール発信」に関する満足度 (R1:64.1%、R2:87.9%、R3:89.2%)を令和6年度において95%をめざす

4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送るとともに、生徒・教職員の健康管理を推進する体制の充実

(1) 生徒の規範意識の向上と保護者や関係機関との連携による教育相談体制の充実を図る

ア 「互いに違いを認め合い、ともに学びともに生きる」ことを育むために一人ひとりの生徒支援の充実を図る

イ 多数の生徒が利用している自転車のマナー向上と交通安全指導の徹底を図る

※ 生徒向け学校教育自己診断における「教育相談体制」に関する満足度 (R1:63.4%、R2:70.2%、R3:74.1%)、保護者向け学校教育自己診断における「教育相談体制」に関する満足度 (R1:65.6%、R2:74.1%、R3:76.2%)を令和6年度においてどちらも80%にする

(2) 「入学してよかったと言える学校」を将来に渡って継続していくために、本校の将来展望を検討する

ア 「運営委員会」「総合学習推進委員会」「オンライン委員会」を中心に将来に向けた特色ある取組みを具体的に検討していく

※ 生徒向け学校教育自己診断における「学校に行くのは楽しい」の肯定度 (R1:83.3%、R2:84.3%、R3:83.3%)を令和6年度において90%をめざす

(3) 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化と防災教育の充実を図る

ア 大規模災害の発生に対応できる防災体制を強化する

(4) 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化することによって生徒・教職員の健康管理体制を充実させる

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>過去3年間の推移を分析</p> <p>【生徒】17項目中7項目の肯定的評価が増加 肯定的評価が3年間（R2→R4）で大きく伸びた項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校の施設・設備には満足している」15.6P 増 <ul style="list-style-type: none"> *トイレ改修、体育館のエアコン設置が好影響の要因である ・「集会での話は分かりやすい」3.9P 増 <ul style="list-style-type: none"> *今年度は始・終業式をすべてオンラインで行っており、話者がアップで投影されることが好影響の要因と考えられる <p>肯定的評価が3年間（R2→R4）で大きく下がった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校へ行くのが楽しい」5.5P 減 <ul style="list-style-type: none"> *コロナ禍における教育活動の制限が影響している <p>【保護者】16項目中10項目の肯定的評価が増加 肯定的評価が3年間（R2→R4）で大きく伸びた項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校の施設・設備には満足している」10.3P 増 <ul style="list-style-type: none"> *生徒と同じ要因 ・「学校は子どもに生命を大切にす心や社会ルールを守る態度を養おうとしている」7.4P 増 ・「学校は特色ある取り組みを行っている」5.6P 増 <ul style="list-style-type: none"> *本校の教育活動における取り組みが評価されている ・「子どもが悩みを相談できる体制ができている」5.6P 増 <ul style="list-style-type: none"> *教員による相談体制に加えて、SC・SSWが評価されている <p>肯定的評価が3年間（R2→R4）で大きく下がった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「各行事において生徒会はよく活動している」5.6P 減 <ul style="list-style-type: none"> *保護者にも理解できる生徒会活動をしなければならない <p>【教員】19項目中16項目の肯定的評価が増加 肯定的評価が3年間（R2→R4）で大きく伸びた項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は清掃が行き届いている」15.5P 増 ・「学校では、命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」14.6P 増 ・「学校運営に教職員の意見が反映されている」11.8P 増 ・「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」11.6P 増 ・「各教科・学年で評価のあり方について話し合う機会がある」10.6P 増 <p>肯定的評価が3年間（R2→R4）で大きく下がった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」8.8P 減 ・「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」8.0P 減 <ul style="list-style-type: none"> *教員が業務に追われていたり、時間外在校時間を削減する中で教員同士あるいは生徒との会話が減っていることも1つの要因と考えられる 	<p>第1回 6月29日（水） 14時開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選抜における志願者を増やすために私学の施設はホテル並みに豪華 府立高校は定員割れに対する対策をしっかりとする必要ある。具体的には行政に対しアクションを起こすなどして教育予算を確保しなければならない。 また、私学は経営の視点が入っており、府立高校にもそのような視点があればいいかもしれない。 <p>第2回 12月14日（水）14時開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの結果を効果的に活用している。藤井寺高校独自の活用方法が授業改善を促進していることがよくわかる。生徒の評価に成果が表れている。 ・学校外で行われる藤井寺高校の学校説明会に対する評判が非常にいい。生徒、保護者が参加することによって希望者がかなり増えている。成果が出ている。生徒を前面に出るような広報活動を今後も続けてほしい。 ・地元の中学生が入学しやすいほうがいい。それが地域の願い。 ・生徒が減少していく中、小学生対象にも高校の紹介を計画的にやらなければならないかもしれない。 ・3回行われる学校説明会は同じものを繰り返しやるのではなく、毎回テーマを決めて行えば中学生に複数回参加してもらえるので志望校の定着につながるのではないかと。 ・学校の顔である職員玄関の整備が必要である。具体的には清掃 と傘立ての置き傘の整理。 <p>第3回 2月24日（金）14時開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価が厳しすぎる。高い評価の中でさらに上の目標を立てているので数値的に上回るのは困難。もう少し配慮してもよいのでは。 ・広報活動を中心に学校の取り組み全てが良い方向に向いている。 ・学力向上の取り組みについては同窓会も支援していきたい。

府立藤井寺高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、希望を叶える進路の実現	<p>(1) 進路希望の実現に向けた教員の指導力の向上と生徒が主体的に授業に取り組むための工夫</p> <p>ア 「主体的に学ぶ力」の向上に向けた観点別評価視点からの授業改善促進</p> <p>イ ICT 活用とオンライン授業による効果的教科指導の構築</p> <p>(2) 3年間を見通した進路指導計画・課外講習の充実</p> <p>ア 1年次からの少人数授業・進学講習の充実</p> <p>イ 多様な進路への対応</p> <p>ウ 大学との連携、自習室活用の拡充、粘り強い進路指導による進学実績向上</p>	<p>(1) ア 「主体的に学ぶ力」の育成および事前学習となる「予習・復習」のために、学習支援クラウドサービスとグループウェア活用の拡大と充実を図るとともに、観点別学習評価の視点から授業改善に取り組み、教務部・オンライン委員会による効果検証を実施する。また、授業アンケート結果の活用によって更なる授業改善をすすめる</p> <p>イ プロジェクタやPC・タブレットを効果的に活用し、オンラインを併用した授業を展開することで、学力向上につなげる</p> <p>(2) ア 「総合的な探究の時間」等を通した1年次からの進路意識の定着と ICT 機器の活用、少人数授業や進学講習、大学との連携による進学に向けた講習の充実を図ることで、学習意欲を向上させるとともに、進路実現に向けた確かな手ごたえを感じさせることによって自信をもたせる</p> <p>イ 多様な進路に対応するため、情報収集、伝達を充実し、幅広い個別の指導を展開する</p> <p>ウ 日々の補習と集中講習「夢へのトライアル」、自習室の活用を促進し、高い目標を設定した粘り強い進路指導をする</p>	<p>(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度[86.1%]を87%以上にする ・授業アンケートの肯定的評価(2回の平均)[88.4%]を90%以上にする ・教員向け学校教育自己診断における「授業改善」[100%]を維持する</p> <p>イ 生徒向け学校教育自己診断における「教材やコンピュータ、プロジェクトなどで工夫された授業がある」[90.9%]において90%以上を維持する</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある」[85.4%]を86.5%以上にする</p> <p>イ 生徒向け学校教育自己診断における「進路や職業について適切な指導を受けられる」[91.9%]において90%以上を維持する</p> <p>ウ 早期からの講習や自習室の活用、オンライン課題提供を促進することで、国公立・難関私立大学の合格者数[50人]を55人以上、それに準じる有名私立大学合格者数[72人]を75人以上にする</p>	<p>(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度83.9%(△) ・授業アンケートの肯定的評価(2回の平均)89.3%(○) ・教員向け学校教育自己診断における「授業改善」97.0%(○) *授業アンケートの肯定的評価向上に対し授業満足度が低下している要因としては、学校全体の学力向上に伴う授業内容のレベルアップが考えられる。授業アンケートおよび「授業改善」の数値については現時点の評価が高く、さらに高い目標設定をしたための結果であり、概ね達成していると判断できる。</p> <p>イ 生徒向け学校教育自己診断における「教材やコンピュータ、プロジェクトなどで工夫された授業がある」91.7%(◎)</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある」82.6%(△)</p> <p>イ 生徒向け学校教育自己診断における「進路や職業について適切な指導を受けられる」89.7%(△) *1、2年に比べると3年の評価が低い傾向にある。これは進路結果が出る前に診断を実施したことが要因であると考えられる。</p> <p>ウ 国公立・難関私立大学の合格者数28人、それに準じる有名私立大学合格者数94人(○) *生徒の進路希望先は多様になっており、これまでの大学ランキングにとらわれない評価が必要である。</p>
2 学校行事や部活動を通して生徒の主体性、創造性を育成するとともに公共心を養う	<p>(1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」を通して、生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力を育成</p> <p>ア 体育的行事における生徒会を中心とした生徒の企画・運営能力の育成と生徒リーダーの養成</p> <p>イ 文化的行事における生徒の「企画力」、「協働的態度」、「責任感」の育成</p> <p>ウ 「部活動」の活性化と、公共心の育成</p> <p>エ 「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」「学校休業日」の完全実施を図るための部活動の効率化</p>	<p>(1) ア 体育的行事において、生徒会部と3学年団の連携によって生徒のリーダー集団を育成するとともに、そのリーダー集団が企画から1、2年を巻き込んで組織運営できるよう指導する</p> <p>イ 文化的行事において、生徒会を中心にクラス単位での企画・運営に取り組みさせることによってクラスの協力体制や責任感の大切さを理解させる</p> <p>ウ 新入生に向けて入部の促進を図り、加入率の向上を図るとともに、各活動を通して、ルールやマナーを順守する態度を育成していく。</p> <p>エ 「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」の完全実施に向けた部活動の効率化と「学校休業日」の周知徹底を図る</p>	<p>(1) アとイ ・生徒向け学校教育自己診断における「フェス体・フェス文等の行事は楽しい」[90.9%]を92%以上にする ・生徒向け学校教育自己診断における「各行事において生徒会はよく活動している」[94.1%]を維持する</p> <p>ウ ・新入生の部活動加入率[76.8%]を77.5%以上にする ・生徒向け学校教育自己診断における「学校は部活動が盛んである」[91.2%]を維持する</p> <p>エ ・100%のクラブが年間活動計画を作成するとともに「ノークラブデー」を完全実施する ・「全校一斉退庁日」における教職員の順守率を85%以上とする(新規目標)</p>	<p>(1) アとイ ・生徒向け学校教育自己診断における「フェス体・フェス文等の行事は楽しい」91.2%(○) *コロナ対策のために行事内容、招待者の制限を設けたにもかかわらず、高い評価を維持した。 ・生徒向け学校教育自己診断における「各行事において生徒会はよく活動している」については、項目変更のため評価なし</p> <p>ウ ・新入生の部活動加入率75.8%(△) ・生徒向け学校教育自己診断における「学校は部活動が盛んである」87.4%(△) *新1年男子の運動系部活加入率が減少し、文科系部活加入率が増加している。対策として11月に2回めの体験入部期間を設けた。</p> <p>エ ・100%のクラブが年間活動計画を作成するとともに「ノークラブデー」を完全実施した(○) ・「全校一斉退庁日」における教職員の順守率91.0%(◎)</p>

府立藤井寺高等学校

<p>3 「地域連携」を核にして「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携を推進する</p>	<p>(1) 支援学校との連携を通じたインクルーシブ教育システムの理解と実践 ア 藤井寺支援学校との交流活動の拡充、インクルーシブ教育システムの構築の理解と実践</p> <p>(2) 「地域連携」を核にした生徒の主体的交流活動の充実による「地域とともにある進学したい学校No. 1」の確立 ア 地域活動の拡充、地域と密着した「地域とともにある学校」の継続</p> <p>イ 海外研修の継続・充実</p> <p>(3) 「藤高(ふじたか)」の良さを知り、実感できる広報活動の充実 ア 学校ホームページ、藤高メルマガのさらなる充実 イ 生徒が主体の「体験入学」、「学校説明会」のさらなる充実</p>	<p>(1) 藤井寺支援学校との年間を通じた交流活動を充実させるとともに、オンラインを含めたインクルーシブ教育システムの構築について理解を深め、実践に生かすことによって年間を通じた「人権教育」につなげる</p> <p>(2) ア 地域活動(新春セミナー・藤彩展・市民講座・校外清掃・地域の催しへの参加、地元小・中学校や幼・保育園との連携活動)の拡充を図り、藤井寺市立北小学校への「放課後学習支援」と「授業研究」の連携を通じて、児童・生徒、教員間の交流を促進する</p> <p>イ ニュージーランドへの海外研修の継続とオンラインによる交流システムの内容を充実させることによって、現地交流高校から日本への短期留学や本校での学校交流、ホームステイ受け入れなどのサポートに取り組む</p> <p>(3) ア ホームページの充実を図り、「求められる情報」を発信するための更新を継続する イ 「体験入学」、「学校説明会」において、在校生が主体的に活躍することによって「藤高(ふじたか)」の良さをわかりやすく伝える</p>	<p>(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さやルール、人権について学ぶ機会がある」[88.1%]を89%以上にする ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている」[89.1%]を90%以上にする</p> <p>(2) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「PTAや地域、近隣の学校(支援学校や北小)との交流は活発である」[82.3%]を83.5%以上にする ・保護者向け学校教育自己診断における「地域や近隣の学校(支援学校や北小)との交流をしている」[85.9%]を87%以上にする</p> <p>イ 海外研修参加者によるアンケートにおいて肯定的評価を90%以上にする(新規目標)</p> <p>(3) ア イ ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は教育情報について提供の努力をしている」[87.0%]を、88%以上にする ・保護者向け学校教育自己診断における「学校のホームページやメールサービスを利用したことがある」[89.2%]を90%以上にする</p> <p>・教員向け学校教育自己診断における「教育活動について必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている」[100%]を維持する</p>	<p>(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さやルール、人権について学ぶ機会がある」89.4% (○) ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている」90.6% (○)</p> <p>(2) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「PTAや地域、近隣の学校(支援学校や北小)との交流は活発である」81.7 (△) *交流事業への参加は希望制であるため、参加していない生徒には評価が難しく高評価になりにくい。 ・保護者向け学校教育自己診断における「地域や近隣の学校(支援学校や北小)との交流をしている」87.2% (○)</p> <p>イ 海外研修参加者によるアンケートにおける肯定的評価95.1% (◎) *3年ぶりの開催となり、参加希望者が多く満足度も高かった。</p> <p>(3) ア イ ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は教育情報について提供の努力をしている」89.7% (◎) ・保護者向け学校教育自己診断における「学校のホームページやメールサービスを利用したことがある」84.8% (△) *今年度は保護者にアカウントを付与して学習支援クラウドサービスの活用を呼び掛けたが、使用方法が難しく浸透しなかった。 ・教員向け学校教育自己診断における「教育活動について必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている」87.9% (△) *地域への周知という点において改善の余地があると考えられる。</p>
---	---	--	---	---

府立藤井寺高等学校

<p>4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送るとともに、生徒、教職員の健康管理を推進する体制を充実させる</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の向上と保護者、関係機関との連携による教育相談体制の充実 ア 生徒一人ひとりに対する支援の充実 イ 自転車マナーの向上と交通安全指導の徹底</p> <p>(2) 「入学してよかったと言える学校」の継続 ア 「藤高」の将来に向けた特色ある取組みの検討</p> <p>(3) 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化および防災教育の充実 ア 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化</p> <p>(4) 生徒・教職員の健康管理体制の充実</p>	<p>(1) ア 本校の教育目標である「互いに違いを認め合い、ともに学びともに生きる」ことを育むために、「教育相談」体制の充実を図るとともに、各学年と部活動の連携、保護者との連携を深め、生徒支援体制を強化する イ 生徒の 98%が自転車通学をしているため、地域や警察と連携した交通安全指導を図るとともに、雨天時の傘さし運転に対する注意喚起を徹底する</p> <p>(2) ア 「入学してよかったと言える学校」であり続けるために、「運営委員会」「総合探究推進委員会」「オンラインライン学習委員会」を中心に学習、学校行事、部活動など学校生活全般についての検討を継続する</p> <p>(3) ア 大規模災害に備え、藤井寺市危機管理室と連携するとともに、必要物資のさらなる調達を進めていく</p> <p>(4) 学校保健委員会、安全衛生委員会の活性化によって生徒の健康を守るとともに、教職員の働き方改革を進める</p>	<p>(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「担任の先生以外にも相談することができる先生がいる」[74.1%]を75%以上にする ・保護者向け学校教育自己診断における「子どもが悩みを相談できる体制ができている」[76.2%]を77%以上にする イ 生徒向け学校教育自己診断における「学校生活についての先生の指導は納得できる」[77.9%]を79%以上にする</p> <p>(2) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「学校に行くのは楽しい」[83.3%]を85%以上にする ・生徒向け学校教育自己診断における「学校は特色ある取組みを行っている」[83.5%]を84.5%以上にする ・生徒向け学校教育自己診断における「学校において個人情報を守られている」[88.6%]を90%以上にする</p> <p>(3) ア 本校、藤井寺市、地域3者合同会議を年1回開催する</p> <p>(4) ・一人当たりの平均時間外在校時間を5%減少させる</p>	<p>(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「担任の先生以外にも相談することができる先生がいる」69.0% (△) *1年生が低い傾向にあるが、今後の学校生活の中で多くの教員と接し、人間関係を築いていけると考える。 ・保護者向け学校教育自己診断における「子どもが悩みを相談できる体制ができている」79.7% (◎) イ 生徒向け学校教育自己診断における「学校生活についての先生の指導は納得できる」78.7%(△) *生徒、保護者に対しては理解を得るための取組みをしているが、さらなる努力が必要である。</p> <p>(2) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「学校に行くのは楽しい」78.8% (△) *不登校が増加しているという全国的な高校生の傾向と同じく、コロナ禍の影響がある。 ・生徒向け学校教育自己診断における「学校は特色ある取組みを行っている」81.0% (△) *今後も生徒の声を聴きながら特色ある取組みを進めていく。 ・生徒向け学校教育自己診断における「学校において個人情報は守られている」89.7% (○) *校内における個人情報の保護については徹底して取り組んでおり、その成果は出ている。数値については現時点の評価が高く、さらに高い目標設定をしたための結果であり、概ね達成していると判断できる。</p> <p>(3) ア 本校、藤井寺市、地域3者合同会議1回開催 (○)</p> <p>(4) ・一人当たりの平均時間外在校時間が13%増加した (△)</p>
---	---	--	--	--